



失敗しないことが低コスト  
農業への第一歩だべ！



## 病害虫防除は浸種から

管内でも早いところでは、彼岸過ぎから種籾の浸種作業が始まります。浸種作業はすべての**籾が一斉に発芽するために必要な水分や薬剤を吸収させること**と、**籾の中に含まれる発芽を阻害するホルモン物質を溶かす**ために行う重要な作業です。籾の一斉発芽は作業効率を良くし、余分な資材経費を抑える事ができます。そのためにはまず、適正な水温・日数で管理することが肝心です。



### 無駄なコスト・労力をかけない！



#### ◆もみ枯細菌を防ぐ！

催芽に時間がかかると、もみ枯細菌病等の発生を助長する危険性があります！  
そういう意味で、浸種は大事な作業です。

そのために重要な事として、

『発芽しにくい品種は若干長めに浸種期間をとりましょう。』

→ 一方で…

後半は、酸素不足による種もみ死滅に注意しましょう！

【15℃程度の水温で100℃の積算温度を確保する！】

→ 水温を確保することで、消毒剤の効果低下や発芽率の低下を防ぐことができます。

#### ◆適切な水管理を！

【浸種前半】…水量は種もみが出ない程度で

水量が多すぎると水温が上がりにくく、薬剤や水分の吸収が悪くなるうえに、薬剤が薄まり効果が低下したり、沈殿しやすくなったりします。

**※種もみが水面から出てこない程度の水量で、日当たりの良い南側に置いて管理をしましょう！**

【浸種後半】…後半は水量多めで

水分を十分に吸収した後は呼吸作用が高まり酸素要求量が多く必要となる事から十分な水量を確保してください。

→ 前半と異なり、日当たり良好な場所に置くと温度が掛かりすぎ、種もみが腐敗する可能性があります。

**※多くの酸素を必要とするので、小まめな水管理が必要です！**

適切な浸種を行い、健全な苗づくりを行うことで、後々の薬剤の使用を抑え、作業効率の向上・資材経費の削減へ繋げましょう！